

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26420654

研究課題名(和文)日本人研究者の満洲調査史料の統合による北東アジア都市・建築史の構築

研究課題名(英文)Constructing the Northeast Asian urban and Architectural history based on Japanese researchers' Manchurian fieldwork documents

研究代表者

奥富 利幸 (OKUTOMI, Toshiyuki)

近畿大学・建築学部・教授

研究者番号：70342467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は四つの部分からなる。まず、戦前日本人研究者による満洲の都市、建築調査の対象となった歴史的建造物を現地で再調査し、その史料価値を確認した上に、データベース化し、体系化した。二つ目は、個別の調査報告や論考を総合的に検証して、劇場建築類型と都城といった具体的な研究対象を通して、北東アジア都市史と建築史の特質を明らかにした。三つ目は、日本と中国の専門家を一堂とする「東アジア建築史・都市史を構築する円卓会議」を3回に渡って企画、運営し、北東アジア建築史・都市史を構築する概念、方法と内容について検討した。最後に、歴史建造物のデータベースを地元に戻し、今後の修理、修復に役に立つことが期待できる。

研究成果の概要(英文)：This research focused on Japanese Architects' Manchuria fieldworks in Meiji era, especially the Manchuria survey had been done by Chuta Ito, Shintaro Ohe, toshigata Sano, Yoshikuni Okuma. In this project we systematize the Meiji era's fieldwork and have compared the historical record with the building's present condition. The research Achievements are not only the papers and books but also the symposium which the Japanese and Chinese scholars exchange the thinking to make the Japanese Architects' Manchuria Fieldwork's historical and modern meaning clearly.

研究分野：建築・都市史

キーワード：北東アジア 建築史 都市史 満洲 村田治郎 稲葉岩吉

1. 研究開始当初の背景

近年日本では、伊東忠太、関野貞の史料のデータベース化及び一般への啓蒙普及が進められており、個々の遺物の基礎データ及び戦前日本人のアジアに対する認識の形成を主軸に整理され始めている。しかし、日本人の中国建築・都市調査で、最も詳しく、深く行われたのはむしろ満洲のものであった。特に、1920年代からは南満洲工業専門学校に教授として勤めていた村田治郎や伊藤清造、新京の建国大学の教授であった稲葉岩吉などは満洲に長年在住し、頻繁に調査、発掘を行い、旺盛な執筆活動を行っていた。しかも、当時の中国では、まだ近代的な建築学が創立していない時期で、満洲の都市、建築調査が日本人のみによって行われ、その史的な価値は極めて高い。そして、満洲の前近代の都市や建築は、近隣の韓国や日本における近世以降の宗教建築の様式や都城の空間構成との関連性が見え隠れしている。しかし、既存の中国大陸に関する前近代の建築史、都市史研究は中央王朝の王朝史に沿って研究され、各地域文化の特質が無視されている。これらの課題を解明することにより、北東アジアの建築史を確立することが本研究の狙いであった。

2. 研究の目的

明治期から昭和まで、日本人研究者が中国の都市・建築を調査し、膨大な史料を残した。近年、伊東忠太、関野貞の業績が整理されたが、13世紀以前の中国内地の遺構への注目が偏在し、かつ都市の視点が不在であり、中国建築の周縁とされる満洲の都市・建築調査の史的な価値、学術的な位置付けを探求することが放棄され、それが北東アジアの都市・建築史を構築するために大切な史料であることが見過ごされてきた。本研究は、村田治郎、伊藤清造、稲葉岩吉などを始めとする戦前の日本人研究者の満洲都市・建築に関するフィールドワーク及び言説をデータベース化し、それらの遺構の所在をマッピングし、時代性を明らかにした上で、史料の分析、統合、論理化することを通して北東アジアの都市・建築史を確立させることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、戦前の日本人研究者が調査した満洲の歴史的建造物や城郭をリスト化し、調査時と現状を比較のため再調査し、遺構の歴史的变化を明らかにする。次に、日本人研究者の調査と戦後の中国人研究者の調査結果を収集し、総合的な検証により、満洲の歴史的建築物の全体像を解明する。また、中国語、満洲語、ロシア語などの文献調査を行う。特に日露戦争のロシア側の従軍記者が『

』という雑誌に写真付で満洲の都城や民家についてその見聞を記録した資料も利用し、これまでにない広範囲の史料収集を行う。これらの多言語文献、フィールドワークの記録

などを統合し、さらに現状と照合して、北東アジアの視点で都市・建築史を検証した。具体的な検証項目は、皇室建築からみる17世紀から18世紀の満洲建築の独自性；満洲族、モンゴル族、朝鮮族、漢族といった多体系の文化が都市空間への影響；劇場建築類型を通して近代化過程に関する研究；満洲の都市と民家と建築技術の独自性などである。

4. 研究成果

本研究では、四つの大きな研究成果を得られた。一つ目は、戦前日本人研究者による満洲の都市、建築調査の対象となった歴史的建造物を現地で再調査し、その史料価値を確認した上に、データベース化し、体系化した。二つ目は、北東アジアの都市・建築文化の特質を明らかにした。既往の中国大陸の都市史、建築史研究では漢族以外の少数民族の都市及び建築文化からの視点が皆無であった。しかし、北東アジアの都市・建築文化の特質は正しく多民族、多文化の体系が共存することによってもたらされたのであることを、包が「建築文化伝播と交流に関する研究現状及び課題 中国少数民族地区を事例に」及び「北東アジアの多文化体系における瀋陽の都市空間構造」にて論証した。また、地域文化の特質に着目して、劇場建築の事例を、奥富が「A Comparative study on China and Japan theaters in 16-19th centuries」及び「从日本传统剧场的谱系看故宫倦勤斋戏台」にて発表した。包は遊牧文化をベースに建設されたフフホトがその後仏教都市への転換による空間構成の変遷を明らかにした。さらに、ロシアと中国の間の遠隔地貿易活動により形成された売買城については、包が「露清中継貿易ネットワークと売買城の形成」を発表した。以上の論文により、北東アジアの都市史・建築史の特質を明らかにした。三つ目は、日本と中国の建築史専門家を一堂にして、東アジア建築史・都市史を構築する円卓会議を3回に渡って企画、運営し、その中に北東アジアの位置付けを試み、北東アジア建築史・都市史を構築する概念、方法と内容について検討し、包が「東アジア建築史に関する構想と新概念」でそれらをまとめ、今後の構築作業の基礎的な整備ができたといえよう。以上の研究調査活動と研究成果の公表によって、北東アジアの都市・建築史の再構築に向けた新たな視座を提供できたと考えている。

最後に、戦前の満洲歴史的建造物のデータと現状を照合して、個々の建造物の基礎的な情報を整理したデータベースを現地の関連する大学、文化機構に提供し、今後現地での歴史建造物、文化財の保存及び修復に役立つことが期待できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計20件)

包慕萍、「北東アジアの多文化体系における瀋陽の都市空間構造」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第15輯、中国清華大学出版社、北京、2018年(掲載決定)

Bao mu ping, "The Sino-Russian Trade Networks and Maimaicheng(Trade Centers)", (査読有)、『中国建築史論叢刊』第15輯、中国清華大学出版社、北京、2018年(掲載決定)

包慕萍、「明・清時代におけるフフホトの都市空間構造の転換に関する研究」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第14輯、中国清華大学出版社、北京、2017年(掲載決定)

包慕萍、「13-14世紀：東アジア建築世界の転換期」、『東アジア建築史を描く』第3回東アジア前近代建築・都市史円卓会議報告書、pp25-42、2017年

包慕萍、「熱河に見る建築の類型」、『東アジアにおける建築の分類体系の意味とその比較』、第2回東アジア前近代建築・都市史円卓会議報告書、pp79-94、2016年

藤井恵介、包慕萍(監訳)、「回顧と展望 日本建築史学の発展」、『中国建築史論叢刊』、査読有、12巻、2015年、pp3-20

川本重雄、包慕萍(監訳)、「年代記から歴史著述へ：日本の宮殿と住宅史研究の現状と課題」、『中国建築史論叢刊』、査読有、12巻、2015年、pp63-79

清水重敦、包慕萍(監訳)、「7-12世紀の日本建築に関する研究の方法論の現状と課題」、『中国建築史論叢刊』、査読有、12巻、2015年、pp40-46

上野勝久、包慕萍(監訳)、「日本中世建築史研究の現状課題」、『中国建築史論叢刊』、査読有、12巻、2015年、pp83-96

包慕萍、「東アジア建築史を構築する新概念」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第12輯、中国清華大学出版社、北京、pp97-111、2015年

包慕萍、「建築文化の伝播と交流に関する研究現状と課題：中国少数民族地域を例に」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第12輯、pp49-62、中国清華大学出版社、北京、2015年

Okutomi Toshiyuki 奥富利幸, "From Outside In: A Comparative Study of Traditional Theaters in China and Japan" (査読有), Senior Academics Forum on Traditional Chinese Architectural History, Vanderbilt University, Tennessee, USA, July 23-25, 2015

Bao Muping 包慕萍, "Multi-storied wooden buildings in 13th century Karakorum: A study of the 300 chi tall Xingyuan Pavilion" (査読有), Senior Academics Forum on Traditional Chinese Architectural History, Vanderbilt University, Tennessee, USA, July 23-25, 2015

奥富利幸「能楽堂の変遷」(査読有)、『楽劇学』第22号、2015年

包慕萍、「中国における建築の伝播と交流に関する研究の現状と課題」、『東アジア建築史研究の現状と課題』第1回東アジア前近代建築・都市史円卓会議報告書、pp39-72、2015年

包慕萍、「東アジアの視点から中国建築史研究を展望する」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第10輯、pp42-58 中国清華大学出版社、北京、2014年

包慕萍他共著、「明治期日本建築界の中国調査及びその研究方法」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第10輯、pp21-41、中国清華大学出版社、北京、2014年

包慕萍、「元の大都の都市計画再考：皇城位置、鐘楼、鼓楼及び「フトン制」」(査読有)、『中国建築史論叢刊』第10輯、pp319-344、中国清華大学出版社、北京、2014年

奥富利幸、「宝生会館能楽堂計画図の発見とその意義」、『日本建築学会(近畿)学術講演梗概集』、pp485-486、査読無、2014年

包慕萍、「上海居住環境の二百年」、『全球都市史研究会報告書』『居住環境類型からメガシティのグローバルな連環と動態を捉える』、pp152-169、総合地球環境学研究所メガ都市プロジェクト刊行、京都、2014年

〔学会発表〕(計15件)

包慕萍、「東アジア建築史を構築するにおける共通性とパナキュラー性について」、『第4回東アジア都市・建築史円卓会議の予備会議』、2017年3月27日、中国清華大学建築学院南会議室

Bao Muping 包慕萍, "East Asian Architectural History Initiative: A New Concept and the methodology", 木構建築文化遺産保護と利用国際シンポジウム、2016年12月3-4日、寧波保国寺古建築博物館

Okutomi Toshiyuki 奥富利幸, "A Comparative Study of Traditional Theaters in China and Japan: Juanqinzhai stage in Forbidden City as a case study", 木構建築文化遺産保護と利用国際シンポジウム、2016年12月3-4日、寧波保国寺古建築博物館

包慕萍、「13-14世紀：東アジア建築世界の転換期」、『第3回東アジア前近代建築・都市史円卓会議』、2016年10月15-16日、京都工芸繊維大学

奥富利幸「能楽堂と時代」2016年5月20日、国立能楽堂公開講座、国立能楽堂

奥富利幸「能舞台のデザイン」2016年4月28日、国立能楽堂公開講座、国立能楽堂

包慕萍、「日中国近代建築悉皆調査の成果とその問題点」、『第11回「近代建築史の最先端：東アジア近代建築史研究の回顧と展望」』、『東アジアの近代建築』から30年』日本建築学会近代建築小委員会、2015年11月29日、日本建築学会会館

包慕萍、「熱河に見る建築の類型」、『東アジアにおける建築の分類体系の意味とその比較』2 回東アジア前近代建築・都市史円卓会議、2015 年 11 月 21-22 日、北京清華大学建築学院

Okutomi Toshiyuki 奥富利幸, “ From Outside In: A Comparative Study of Traditional Theaters in China and Japan ”, Senior Academics Forum on Traditional Chinese Architectural History, Vanderbilt University, Tennessee, USA, July 23-25, 2015

Bao Muping 包慕萍, “ Multi-storied wooden buildings in 13th century Karakorum: A study of the 300 chi tall Xingyuan Pavilion ”, Senior Academics Forum on Traditional Chinese Architectural History, Vanderbilt University, Tennessee, USA, July 23-25, 2015

包慕萍、「中国における建築の伝播と交流に関する研究の現状と課題」、『東アジア建築史研究の現状と課題』第 1 回東アジア前近代建築・都市史円卓会議、東京大学生産技術研究所、2014 年 10 月 25-26 日

奥富利幸「宝生会館能楽堂計画案の発見とその意義」日本建築学会大会、神戸大学、2014 年 9 月 12 日

奥富利幸「東アジア伝統劇場建築の近代化」東アジア建築史研究交流会、漢陽大学建築系東洋建築史研究室、ソウル、韓国、2014 年 7 月 25 日

包慕萍、「モンゴル帝国首都カラコルムの高さ 300 尺の興元閣と新羅の皇龍寺」東アジア建築史研究交流会、漢陽大学建築系東洋建築史研究室、ソウル、韓国、2014 年 7 月 25 日

奥富利幸「能楽堂の変遷」第 22 回楽劇学会大会公開講演会 国立能楽堂、2014 年 6 月 7 日

〔図書〕(計 5 件)

路秉傑、包慕萍共訳、太田博太郎著『日本建築史序説』、同濟大学出版社、上海、2016 年 10 月、総頁数 309

頼徳霖、伍江、徐蘇斌、包慕萍他共著『中国近代建築史』(中国語)、中国建築工業出版社、北京、2016 年 6 月、総頁数 502

村松伸、山田協太、内山愉太、包慕萍他共著『メガシティの進化と多様性』、東京大学出版会、2016 年 9 月、総頁数 357

陳伯超、包慕萍他共著『瀋陽近代建築史』、中国建築工業出版社、北京、2016 年 1 月、2015、総頁数 298

藤森照信、包慕萍他共著『歴史遺産 近代建築のアジア』第二巻、総頁数 262、pp .36-257、柏書房、2014 年 1 月

6 . 研究組織

(1)研究代表者

奥富 利幸 (OKUTOMI Toshiyuki)

近畿大学・建築学部・教授

研究者番号：70342467

(2)研究分担者

(3)連携研究者

包 慕萍(BAO Muping)

東京大学・生産技術研究所・協力研究員

研究者番号：40536827